



打出小槌町 15 番にあたる約 3300㎡の敷地は、もともと金庫・仏具商の松山與兵衛の所有地で、延面積 800㎡の屋敷が建っていました。昭和 27 年（1952）、芦屋市はこの土地と建物を購入し、敷地南半にあった松山の仏教美術品の収蔵庫「松濤館」を改修した後、昭和 29 年（1954）より市立図書館として開館しました。その後、昭和 62 年（1987）に現在の市立図書館本館（伊勢町）の開館に伴い、市立打出教育文化センターとして増築・改修を行い、平成 2 年（1990）からは同センター併設の市立図書館打出分室として利用しています。なお、松山が所有していた敷地の北半には昭和 39 年（1964）に市立小槌幼稚園が開園していますが、幼稚園を含



移築当時の松濤館／出典：『松濤秀萃』（昭和 10 年〔1935〕刊行）

- 所在地 芦屋市打出小槌町 15 - 9
- 電話番号 0797 - 38 - 7130
(芦屋市立打出教育文化センター)
- 休館日 日・月・火・祝日・年末年始
- 開館時間 10 ~ 17 時
- アクセス 阪神打出駅より北へ徒歩約 3 分
- 備考 外観・内観とも自由見学可

国登録有形文化財

きゅうまつやまけじゅうたくしょうとうかん
旧松山家住宅松濤館（芦屋市立図書館打出分室）

所有者	芦屋市
設計者	不明
施工者	不明
構造	鉄筋コンクリート・石造 2 階建
建築面積	150.12㎡
延面積	300.24㎡
竣工年	不明（明治時代と推定）
移築年	昭和 5 年（1930）
登録年月日	平成 21 年（2009）1 月 8 日
その他指定等	兵庫県景観形成重要建造物等



移築当時の松濤館と門・塀／出典：『松濤秀萃』（昭和 10 年〔1935〕刊行）



御影石を乱れ積みした石垣（塀）と打出教育文化センターの入口

によると、本建物は御堂筋の道路建設のために撤去となる「大阪市内某銀行」を買い取り、昭和5年（1930）に現在の場所へ移築した経緯が記されています。この「大阪市内某銀行」については、逸身銀行と言われていましたが、近年の調査研究では東京貯蔵銀行大阪支店の可能性が有力になっています。

む敷地東側には、松山家の頃の地元の御影石（花崗岩）を乱れ積みした石垣（塀）が残っています。このような石垣は、阪神間の大邸宅でよく見られます。打出教育文化センターの入口には和風の腕木門が残っていましたが、平成7年（1995）の阪神・淡路大震災で倒壊し、撤去されました。なお、打出教育文化センター内にある日本庭園も松山家の頃のものです。

松山の著書『松濤秀萃』^{しょうとうしゅうすい}（昭和10年〔1935〕刊行）に



花崗岩をルスティカ積みした、ルネサンス期のイタリアのパラッツォ（宮殿建築）のような、どっしりとした重厚な外観。北東の外壁はアール状になっており、また北面と東面が石造であるのに対し、西面と南面はコンクリート造であることから、移築前にはこの建物が街区の角地に建っていたことがわかる。軒下には、デンティル（等間隔に配置された歯状の飾り）が施され、縦長のアーチ窓も特徴的。



打出教育文化センターの日本庭園。松山家の頃のものと推定する燈籠などが残る。



扉の内側には、ロマネスク調の木製飾り柱が残る。



「松」「濤」のデザイン文字。



「松」「濤」の文字がデザインされた扉。